

自己再発見伝

Vol.31
2022.10

逃げない。

「私」と倫理

逃げない

茨城県倫理法人会 会長
飯田正之さん

でも、逃げない

茨城県倫理法人会 幹事長
小室光由さん

やっぱり、逃げない

茨城県倫理法人会 事務長
宮田満男さん

茨城県倫理法人会の仲間と行く

富士研セミナー

2022

本当の、自分に出会える。

毎年恒例、茨城県倫理法人会

冬の「富士研セミナー」を、今年度も開催します。

心を落ち着けて、自分を見つめ直せる、

貴重な二泊三日。毎年、「参加してよかった」という

声を多く頂戴します。

未経験の方も、この機会にぜひ参加ください。

A、Bいずれかのコースを選択ください

Aコース 募集定員30名
R5.2.10-12 日
2泊3日/
午後2:00開講・終了日は午後2:00終了

Bコース 募集定員30名
R5.3.24-26 日
2泊3日/
午後2:00開講・終了日は午後2:00終了

申込締切・申込方法など詳細については後日お知らせいたします



逃げない

【茨城県倫理法人会 第16代会長／倫理経営インストラクター】
（株）飯田製作所 代表取締役 飯田正之さん（古河・境倫理法人会）

妻の笑顔に救われて

【不器用】

もともと器用な人間ではない。問題に直面すると真正面からぶつかってしまう。うまくかわす方法や都合のいい逃げ道を見つければいいのだろうが、それができない。その時々で倫理に救われ、役に救われ、妻に救われながら、困難に苦しみ、人とぶつかり、満身創痍で乗り越えるしかなかった。それでも今振り返ると、何事も逃げないで受けてきたことが、ささやかな自信につながっていると感じる。

【経営者になりたい】

農家の長男だが「手に職をつけたい」と決めると、両親も賛成した。ゆくゆくは自分の会社を興したいという希望もあり、薄物板金加工会社で7年間勤め、職人としての技術を身につけると、親会社で修行していた弟と友人を加えた3名で「飯田製作所」を設立した。明るい性格の妻は人付き合いもうまく、大層よく笑う感激屋で涙もろいところもあり、おかげで明るい家庭が築けた。会社でも専務として支えてくれ、社員との橋渡しを担ってくれる。

【危機感のない10年】

時代の後押しもあって、太い顧客を得ることができた。その顧客から材料が支給され、加工・組立てを行い、指示通りに納品

する。10年でその会社との取引は売上の約6割を占めた。しかし突然、その得意先が倒産し、初めて慌てた。危機感を抱くこともなかった10年間、十分な貯えや備えをしていなかった。素材一つネジひとつ、どこからいくらで仕入れればいいのか分からない。週3日しか稼働できないほど仕事が減り、経営危機を迎えた。経営者としての自覚・勉強不足を痛感した。

【妻にあたる】

焦りとイライラが募り、妻と言い争うことが増えた。ある晩、私は酒を飲み、妻が携帯電話を持ち歩かず肝心の時に繋がらないイライラで夫婦喧嘩になり、腹いせにテーブルをひっくり返した。妻は黙って席を外



した。残された私は、妻が作った私の好物が床に散らばる無残な様子を見て力が抜けた。割れた皿やコップを自分で片付けると心から情けなくなり、何としてでも状況を変えようと思えた。

【学ばねば】

少しでも支出を減らそうとコストを見直す「倫理法人会会費」が目に入った。

JC時代の先輩から毎月一冊（職場の教養）が届き、入会を勧められた。断ると翌日再び来社され入会を迫られた。これは仕事にならないぞと思い、妻も「断ってもきつとまた来るよ」と言うので、渋々入会。朝が苦手な私はモーニングセミナーにもいかず、ただ半年間会費を払い続けた。

しかし6割の売上を失う事態に陥り、いよいよ経営者として真剣に勉強しなければと考え、入会半年でやっとMS会場に向かった。「会費一万がもったいない、退会しよう」と考えなくて助かった、と今では思う。

【成長できる】

入会した「埼玉県」古河倫理法人会には経験豊富な先輩が多く、指導も厳しかった。役員朝礼や会場整備には細かく厳密なルールがあり、運営も厳格で、MS参加人数や朝礼コンテストでもトップクラス、埼玉県内でも一目置かれていた。

〈万人幸福の葉〉も、モーニングセミナーも、これこそ経営者の学びだと思えるものだったし、会の運営や普及活動も新鮮で刺激的だった。自分と似た悩みをもつ仲

間、またそれを乗り越えた先輩も多く、人の話を聞くことがそのまま学びになり、自身の成長につながった。

【厳しさこそ倫理】

古河が倫理の始まりだった私は倫理活動に熱中した。会社経営はまだ苦しく稼働できない日もあったが、そんな時は倫理の研修を行い、活力朝礼の練習をした。社員はもちろん、弟と友人の尽力もあり、会社は何とか持ち直した。「倫理は正しい」。そう確信した。

やがて古河の会長、さらには分封した古河・境の初代会長を経験し「厳しく、正しくなければ倫理じゃない」とばかりに、会社でも倫理活動でも正しさを振りかざす人間になっていた。当然、そんな私に反発を覚える人間もいた。会社では私が経営者であり、厳しくしても従業員は受け入れてくれるが、倫友は同じではない。倫理法人会の会員はすべて経営者であり、それぞれの会社のトップなのだ。しかしそれに気づかない私はある倫友と正面衝突した。

【まず、謝れ】

自分は正しい、相手が間違っていると憤る私に、先輩は「まず自分から謝れ」と言った。とんでもないと思ったが「何事もハイと受ける」と教えられていた私は、葛藤しながら相手に詫言した。先方はひどく驚いたが「自分こそ悪かった」と折れて、以降はお互いに理解し合う仲間となれた。

埼玉県から茨城県への編入や、分封も



【株式会社 飯田製作所】

薄物板金機械加工一式

茨城県猿島郡境町蛇池525-4
TEL:0280-87-0524
FAX:0280-87-0804
<http://www.iida-stn.co.jp/>

数回経験した。我が古河倫理法人会が軽んじられたように感じ、目上の倫友と衝突したこともある。分封を推進する立場になってみると、様々な人の感情や意見に翻弄され「もう誰の話も聞きたくない」と追い込まれたか、突発性難聴を患ったこともあった。

そんな経験を重ねるうち、「厳しくなければ」と気負いすぎていた自分に気付いた。

【 明朗とは、愛和とは 】

厳しいだけでは人はついてこない。必要なのは「強制」ではなく「共感」ではないか。「明朗・愛和・喜働」を繰り返して唱えていたのに、自分は明るくない、愛がない、人のために喜んで動いていない。

一緒に学ぼう、共に成長しよう、皆さん、私についてきてください、きっといい風景を見せますから。そんな思いを抱き始めた頃「飯田さんの笑顔はいいねえ」「笑った顔が夫婦そっくり」と言われるようになった。

妻は常に私を肯定し、家族を大切に、会社のために働き、社員の声にも耳を貸している。私が問題に取り組む姿を、誰よりも身近で見ている。もう嫌だ、倫理なんて辞めてやると思った時も「大変だね、頑張ってるね」と妻が笑って見てくれたから、肩の力が抜けて楽になれた。まさに「明朗・愛和・喜働」の妻なのだ気付いた。

そんな妻に「似てる」と言われ、「倫理を学んでよかった」と実感する。二人の息子も後継者倫理塾で学び、その成長ぶりに目を見張ることもある。家族揃ってMSに参加できることはこの上ない喜びだ。

【 これがよい 】

もし、得意先が倒産してしなかったら、倫理を学んでいなかったら。きっと未だに危

機感もなくリスクを抱え、危うい経営を続けていただろう。会社どころか家庭も壊れていたかもしれない。危機があったからこそ、乗り越えたことで自信がついた。まさに「これがよい」と倫理で学ぶ通りになった。

そんな心境で迎えた今年度、茨城県倫理法人会第16代会長を拝命した。厳しいばかりで人をまとめられなかった私。困難に直面するまでリスクに気づけなかった私。様々な経験をすべて糧にして、県会長としての役を全うしたい。

前会長、和田政彦さんに幹事長として仕えた2年間。穏やかさと厳しさの緩急のついた姿勢、皆の意欲を高める声掛けに多くを学んだ。年度の普及目標を大きく上回る結果を出した和田会長の後を継ぐ私は、その勢いを止めることなく、同時に質の向上を目指してより強固な会へと成長することが使命だと感じる。

MSで仲間や講師の話聞くことは貴重な学びになるが、「実践」には及ばないと私は思う。心に決めて実践することで必ず変化が起こる。自分自身の変化や、家族や会社の変化に気付く。その変化を仲間と共有し、良い事もつらい経験も勇気を出して「にっこり笑ってエイ」と仲間に洗いざらい晒すことで、すべて自分の糧になる。倫理実践を積み重ねる仲間が増えていけば、茨城県倫理法人会はさらに充実し、共に成長していける。

【 にっこり笑って 】

まだまだ私も成長過程、独りよがりや短気な自分と闘いながら、県会長を務めて参ります。皆さん、「にっこり笑ってエイと一声」、ともに成長して参りましょう。

どうぞよろしくお願いいたします。



隣で一緒に
同じ風景を見たい

妻：飯田英美子さん

〈 おいけてぼりの寂しさ 〉

子どもの世話にまだ手がかかった頃から、何だかんだと忙しく出かけていく夫の背中を見送る時、おいて行かれる寂しさを感じたことをよく覚えています。大切な可愛い息子たちと過ごせて何より幸せなはずなのに、不思議と「夫においてけぼりにされた」という感情がありました。

なので、息子たちが成人し、同じ会社で共に働くまでに成長してくれた現在、私自身も古河・境倫理法人会の幹事として、モーニングセミナーに参加し、様々な人と出会い、色々な話から学び、自分の成長を感じている今がとても嬉しいんです。

〈 クセは誰にでも 〉

こう言うと驚かれるのですが、夫への不満や文句はあまりありません。

人は誰にでもクセがあり、長所短所があり、夫にも私にも当然あります。悪いところばかり見ていたら自分がつらくなるし、自分も周囲に受け止めてもらっている分、人の短所もクセも「そういう人だから」と受けとめるようにしています。

夫は誰かのミスに対して、本人が反省していても「ほら見ろ、だから言ったろう」と上塗りするクセがあります。軽い気持ちからの発言ですが、「今それは言わなくてもいいのにな」と感じることはあります。でも、それもまた夫の一面。そこを指摘しても、ヤキモキするのは私。なので、あまり追求しません。

こんな風に考えられるようになったのは、倫理のおかげです。倫理を学んで、人の見方が変わりました。

自分が明朗であれば、他人の機嫌や言動に振り回されることがなくなります。愛和の心があれば、「個性」として人を受け入れられます。

〈 自分のために学ぶ 〉

「ご夫婦で倫理を学べてうらやましい」と言われることがありますが、私が倫理を学ぶのは、会社や社員、夫のため…だけではありません。私自身が学べるからです。色々なお話を聞いて反省することもたくさんありますが、とにかく元気になるので楽しく学んでいられます。

この度、県会長という大役を担うことになった夫は、重責を感じ、緊張し、初めて弱気な言葉も耳にしました。

これまで夫が役職を受けるたび、ステージが変わり、出会う人が変わり、挑戦する内容も変わりました。私はその変化を、夫の隣で楽しませてもらいます。茨城県倫理法人会の長ともなれば、その変化は大きなものになるでしょう。

気分は、映画「タイタニック」のワンシーン。直角になった船の帆先で、ドキドキしながら大きく息を吸い込んで、いざ海の中へ…。船に浮沈があったように、いろいろ想像しつつ、大役に挑む夫の隣で支えていきたいと思っています。